

探訪 都の企業

こだわり 製品品質

◆ 下

軽く強く 命つなぐ



特殊な断熱材を用いた血液製剤などの輸送バッグを手にする産原の佐々木社長（29日、東京都目黒区で）（淡路久重撮影）

「輸血などで使われる血液製剤を良い状態で保ち、安心して使ってもらいたい」。

血液の温度を一定に維持しながら輸送できるバッグ「エバッグ」を開発・販売している産原（目黒区八雲）の佐々木社長（左）は、自慢の製品への思いを語る。

産原は長年フクチンや血液製剤を保管する医療用冷凍庫などの製造を主に手掛けてきた。佐々木さんは七年前に、それまで勤務していた広告代理店から

血液製剤運ぶバッグ

産原（目黒区八雲）



当時父親が社長を務めていた産原に転職。ライバルの大手家電メーカーと差別化を図るためにも「保管だけでなく、輸送段階から使う製品を一括して提供したい」と考え、エバッグの開発を始めた。

血液製剤は保管温度の幅が狭く、厳しい温度管理が求められる。例えは赤血球製剤の場合、血液製剤をつねに一定の温度に保ちながら輸送・管理する必要があり、輸送段階から使う製品を一括して提供したいという考え、エバッグの開発を始めた。

血液製剤は保管温度の幅が狭く、厳しい温度管理が求められる。例えは赤血球製剤の場合、血液製剤をつねに一定の温度に保ちながら輸送・管理する必要があり、輸送段階から使う製品を一括して提供したいという考え、エバッグの開発を始めた。

材を使った製品が主流だったが、「発泡スチロールでは断熱効果が小さく、真空断熱材は重くて壊れやすいとの欠点があった。そこで佐々木さんは住宅の断熱材に着目した。

当時の産原は、輸送段階から使う製品を一括して提供したいという考え、エバッグの開発を始めた。

血液製剤は保管温度の幅が狭く、厳しい温度管理が求められる。例えは赤血球製剤の場合、血液製剤をつねに一定の温度に保ちながら輸送・管理する必要があり、輸送段階から使う製品を一括して提供したいという考え、エバッグの開発を始めた。

血液製剤は保管温度の幅が狭く、厳しい温度管理が求められる。例えは赤血球製剤の場合、血液製剤をつねに一定の温度に保ちながら輸送・管理する必要があり、輸送段階から使う製品を一括して提供したいという考え、エバッグの開発を始めた。

2013 〘よい仕事おこし、フェアでは約400のブースが設けられ、東北の被災企業も出展する。東北特産品の販売やグルメを味わえるコーナーもある。東京新聞も出展し、新聞製作を実演する。入場無料。